

## 日本有機農業研究会 夏のシンポジウム 2019

### 脱農薬・反ゲノム操作食品アピール

本日、私たちは、「警告あり！ 農薬の健康への影響」をテーマにシンポジウムを開催し、日本では農薬をはじめとする有害化学物質が大量に使われ続けていることが改めてわかり、人々とりわけ子ども、胎児、若者たちの健康が危機にさらされていることを痛感した。また、自然界には存在しない、遺伝子工学／遺伝子操作による「ゲノム操作」（ゲノム編集）食品の一部については、表示も、安全性審査や環境影響調査もされず、食卓にのぼる日がすぐにもやってくることに憤りを禁じ得ない。

そこで、次のことを、政府、自治体、および事業者、そして私たち農業者・消費者に呼びかける。

- 1 農薬（除草剤）グリホサートの使用・販売・製造・輸出入の中止・禁止を求める。
- 2 農薬（殺虫剤）ネオニコチノイドの使用・販売・製造・輸出入の中止・禁止を求める。
- 3 遺伝子工学／遺伝子操作技術による「ゲノム編集」（ゲノム操作）などの新たなタイプの新種開発が農業・食品分野で行われるようになった。自然の摂理をかき乱すこれらのものは、一切、認められない。すべて、禁止すべきである。
- 4 他方、「デトックス・プロジェクト・ジャパン」の活動や、NPO 福島県有機農業ネットワークの調査活動などにより、食べ物を有機食材のものに換えて、有機の食事を食べ続ければ、体内農薬濃度は下がることがわかった。私たちは、こうした事例を踏まえ、保育園・幼稚園・学校の「給食をオーガニックに！」することを求める。

子どもの未来を考え、有機給食は公共の負担とし、無償とすべきである。地域の有機農業を広げ、地産地消の活動の中で、子どもたちの給食を有機食材にしていくことを計画し実行することを訴える。

2019年9月7日

日本有機農業研究会